



かすぎ 市議会だより

vol.
75
2023.7

4月緊急会議

・ 林業DX推進事業に対する議論

6月定例会議特集

・ 本会議で審議された議案等

・ 常任委員会審査報告

・ 一般質問要旨

他

主な掲載内容

- ◆ 本会議で審議された議案等・・・P 2～P 3
- ◆ 委員会審査報告……………P 3～P 4
- ◆ 一般質問要旨……………P 5～P 11
- ◆ 林業DX推進事業に対する議論・・・P 12

編集・発行：安来市議会広報広聴委員会
TEL：23-3125/FAX：23-3153

雲樹寺の紫陽花 撮影：三原哲郎議員

第101回安来市議会定例会4月緊急会議（令和5年4月27日）

4月緊急会議では「新型コロナウイルスワクチン接種事業」「林業DX推進事業」などを含む補正予算案1件、財産の取得の案件1件の合計2件の審議を行い、すべて可決、同意等いたしました。また報告案件3件を受けました。4月緊急会議での補正予算案に対する議論については12ページをご覧ください。

■全会一致で可決、同意した議案

提出者	番号	件名	付託
市長	議第88号	財産の無償譲渡について	✓

■賛否の分かれた議案

予…予算決算委員会 賛成…○、反対…×、欠席…欠、除斥…斥、退席…退、棄権…棄

提出者	番号	件名	付託	議席番号																		
				議決結果	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
市長	議第87号	令和5年度安来市一般会計補正予算（第1号）	予	原案可決	○	○	○	×	○	○	○	○	○	×	○	○	×	×	×	○	議	
					内田	湯浅	三原	清水	福井	岡本	原瀬	飯橋	岩崎	三島	向田	澤田	佐々木	作野	石倉	足立	葉田	永田
					卓実	正志	哲郎	保生	加代子	早智雄	清正	由久	勉	静夫	聡	秀夫	厚子	幸憲	刻夷	喜信	茂美	巳好

※議員定数18人 議長は採決に加わらない

■報告事項

提出者	番号	件名
市長	報第2号	議会の委任による専決処分の報告について
市長	報第3号	議会の委任による専決処分の報告について

提出者	番号	件名
市長	報第4号	議会の委任による専決処分の報告について

第101回安来市議会定例会5月緊急会議（令和5年5月15日）

5月緊急会議では、伯太体育館耐震改修工事についての工事請負契約案件1件の審議を行い可決しました。

■全会一致で可決、同意した議案

提出者	番号	件名	付託
市長	議第89号	工事請負契約の締結について	✓

第101回安来市議会定例会6月定例会議（令和5年6月1日～19日）

6月定例会議では条例案4件、予算案1件、財産の取得についての案件2件、そして安来市農業委員会委員の任命についての同意案件1件の合計8件について審議を行いすべて可決、同意しました。また報告案件2件も受けました。さらに陳情1件についても審議を行いました。

■全会一致で可決、同意した議案

総…総務企画委員会、文…文教福祉委員会、予…予算決算委員会

提出者	番号	件名	付託
市長	議第90号	安来市印鑑登録及び証明に関する条例の一部を改正する条例制定について	文
	議第91号	安来市新型コロナウイルス感染症により生じた事態に対処するための職員の特殊勤務手当の特例に関する条例の一部を改正する条例制定について	総
	議第92号	安来市手数料条例の一部を改正する条例制定について	文
	議第93号	安来市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例制定について	文

提出者	番号	件名	付託
市長	議第94号	財産の取得について	文
	議第95号	令和5年度安来市一般会計補正予算（第2号）	予
	議第96号	財産の取得について	✓
	同第5号	安来市農業委員会委員の任命について	✓

■報告事項

提出者	番号	件名
市長	報第5号	令和4年度安来市一般会計予算繰越明許費繰越計算書の報告について

提出者	番号	件名
市長	報第6号	令和4年度安来市下水道事業会計予算繰越計算書の報告について

■ 請願・陳情審議結果

番号	件名	付託委員会	委員会結果	本会議結果
陳情第3号	インボイス制度実施中止についての陳情書	総務企画	不採択	不採択

第101回安来市議会定例会全員協議会（令和5年6月1日）

■ 全会一致で承認した案件

提出者	番号	件名
市長		安来市都市計画マスタープランの一部修正（案）について

4月緊急会議
予算決算委員会審査報告

令和5年度
 安来市一般会計補正予算（第1号）

林業DX推進事業

【事業概要】

市内の森林全域の航空レーザー計測により取得した森林情報のデジタル化を行い、さらに、森林情報を県が整備した「島根県森林クラウドシステム」に搭載し、地域の林業事業者や市民に対して森林情報を公開することで、私有林整備、原木生産に係る路網整備、地域林業の効率化を図るとともに、市民が森林に関する情報にアクセスしやすい環境を整備し、利便性向上を図るもの。

【事業費及び財源内訳】

事業費 1億円
 内訳 国庫補助金※ 5,000万円
 一般財源 5,000万円

※デジタル田園都市国家構想交付金
 （補助率1/2）

【主な審査経過】

【質問】 事業費1億円に対し、出雲市の事業費4,600万円に対して事業費の見積もりが妥当なのか。

【答弁】 出雲市は、2年度に分けて実施し、初年度は、約17,000haに4,600万円の予算である。安来市は、物価高騰の影響と、約30,000haであることから1億円の予算である。

【その他の意見】

■ 事業費1億円のうち、一般財源が5,000万円使用されることに対し、議会への情報提供や、導入されている自治体への視察などの情報収集、費用対効果などの検証が必要であり、現時点では時期尚早と考えることから、この一般財源5,000万円を他のことに使用すべきでないか。

■ 安来市の森林簿の更新状況や、これまでの林業への予算割り当ての状況から、これからの林業への大きな投資と考えられる。

6月定例会議
常任委員会審査報告

常任委員会とは……

常任委員会はそれぞれ所管する部門の議案や請願・陳情などを審査したり、事務に関する調査を行います。行政の事務は多岐にわたり、かつ専門的であるため能率的に審査・調査するよう部門別の委員会を設けています。

総務企画委員会

〈現地視察〉



イエローバス旧・観光ループ線視察
 （市役所～雲樹寺入口）



風力発電建設予定地視察
 （広瀬町東比田坊床）

議第91号

安来市新型コロナウイルス感染症により生じた事態に対処するための職員の特殊勤務手当の特例に関する条例の一部を改正する条例制定について

【概要】

新型コロナウイルス感染症の感染状況上の分類が2類から5類になったことに伴い、伝染病防疫業務従事手当の特例について、再度同様の措置が必要となった場合に特例が適用できるよう、所要の改正を行うもの。

【主な審査経過】

問 名称変更が主な内容と考えるが、特殊勤務手当の内容について変更はないのか。

答 特殊勤務手当自体の変更は無く、将来、未知の感染症等が流行した場合、これに対応する職員に対して手当が払えるように、条例の一部を改正するものである。

問 未知の感染症等の流行で、政府対策本部が設置されたものとされているが、パンデミックに市としては、政府対策本部が立ち上がる前にもいろいろ動かなければならないと考えるが、その場合はどうなるのか。

答 国として、国民の生命及び健康に重大な影響を与える未知の感染症であると認定することが前提になっており、それに合わせて対策本部が立ち上がることを考えているため、認定後の支給になる。

問 他の自治体も同様に改正をおこなっているのか、安来市独自の改正なのか。

答 自治体によって手法は異なるが、およそどの自治体も最終的には同様な

内容になるように対応している。

陳情第3号

インボイス制度実施中止についての陳情書

【概要】

大企業も中小事業者も消費者にとっても、負担しかないインボイス制度は中止すべきと考え、安来市議会として「インボイス制度実施中止を求める意見書」を政府及び関係機関に提出することを求める。

【主な審査経過】

意見 インボイス制度は問題が多く、これまで免税事業者だったのが課税事業者になることによって、多大な影響をこうむるため、採択すべき。

意見 課税の公平からみれば誰もが納税すべきで、国を維持するためには税金は必要であり、不採択だと考える。

意見 インボイス制度については、延期や見直しといった声がある中、この陳情は実施中止とある。実施中止についてはどうかと思う。

文教福祉委員会

議第94号

財産の取得について

【概要】

令和5年度安来市ごみ収集指定袋を購入するもの。予定価格が2千万円を超えており、地方自治法第96条第1項第8号の規定により、議会の議決を求めるもの。

【主な審査経過】

問 前回と比べて1枚あたり単価がど

れぐらい上昇しているのか。

答 サイズごとの1枚単価は把握していないが、昨年度の契約価格は税込みで1,395万2000円であった。

問 同じ枚数で600万円程度上がったということだと理解するが、原因は何か。

答 ゴミ袋の作成費は原油価格に左右される。原油価格が高騰している煽りを受けているのが原因である。令和元年度から令和3年度まで海外で製造していたが、令和3年度にコロナ禍で海外の製造工場周辺がロックダウンし、納品が遅れたという事態が生じた。在庫がなくなるのを防ぐため、令和4年度より国内産に変更しているが、次年度以降はコロナ情勢を踏まえ、情報収集しながら、海外製への変更も考えていきたい。

予算決算委員会

議第95号

令和5年度安来市一般会計補正予算(第2号)

新型コロナウイルス

ワクチン接種体制支援事業

【概要】

新型コロナウイルスワクチンの効果的・効率的な接種を進めるため、接種に協力する医療機関への支援を行うもの。なお、本事業は令和4年度に島根県で実施されていたが、令和5年度から市で実施することとなったもの。

【事業費及び財源内訳】

事業費 1千546万円
内訳 国庫支出金※ 1千546万円

【主な審査経過】

問 タクシーでの医療機関への運送事業はなくなったのか。

答 新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類となったため、他の予防接種との整合性をふまえ、行わないこととした。

消防団の力向上モデル事業

【概要】

社会環境の変化に対応した消防団運営の普及・促進を目的として、消防団の活動を支援するため、総務省消防庁の委託事業として実施するものであり、令和5年度事業として採択されたことから補正予算に計上するもの。この事業を活用し、安来市消防団において災害現場でドローンを使用し迅速有効な活動を行うことを目的に、ドローンの購入及び操作講習を実施し災害支援団員の育成を図る。

【事業費及び財源内訳】

事業費 250万円
内訳 国庫支出金 250万円

【主な審査経過】

問 ドローンの講習費用は資格を取得するものか。

答 ドローンの操作講習の費用であり、消防職員2名が受講し、受講後に各方面隊の消防団員2名ずつ計6名に操作方法を指導する。

※4月27日の予算決算委員会については3ページをご覧ください。

※新型コロナウイルスワクチン接種体制確保事業補助金



市民クラブ
岡本 早智雄

今後の森林整備と

その効果について

質問 安来市の林業振興を含む森林整備について、どのように進めたいと考えておられるのか、市長に伺う。

答弁 森林の整備はもはや待ったなしの状態である。そのためには、信頼できるデータに基づいた整備を行う場所の優先順位や、どのような公益的な機能の発揮を念頭に置いて整備するべきかなど、様々なことをしっかりと考え抜いた上で取り組まなければならないと考えている。森は100年かけて育つと言われていて、森林ビジョンの策定を通じて実効性のある取り組みとしていく考え方である。

質問 それらの取り組みの実施でどのような効果が生じると考えておられるのか伺う。

答弁 第一には、安来の貴重な水源を守って、豊かで、清らかな水を将来にわたって残していかなければならないと考えている。時間はかかると思うが、その中で野生鳥獣が住処として豊かな森が育まれるのであれば、結果として、鳥獣被害の防止にも役立つ里山づくりになってくる。

また、林業の担い手の確保と育成、生産性向上の促進などとともに、林業を起点とした新たな産業の振興にも取り組み、中山間地域の定住促進と健全な森の造成による、カーボンニュートラルの達成にも貢献できる。

質問 今後の森林行政、森林整備に向けた思いを伺う。

答弁 森林整備はもはや待ったなし。あとき、何で取り組んでくれなかつたのかと将来の方々に思われなくてもどうしようもない。

益田市、津和野町、吉賀町では、航空レーザー計測によって、きちんとした計画策定をしていることを見ている。正確なデータを取りながら、実効性のある行動計画を示していくと思う。

飲料水、工業用水、農業用水も非常に大切であり、水源確保を考えれば、早急に森林整備が必要で、実施に向けた強い決意を持っている。



市民クラブ
澤田 秀夫

風力発電事業の

方向性について

質問 風力発電事業についての議会の意見並びに建設予定地にある市有林や保安林への対応を伺う。

答弁 保安林の解除又は転用にあたっては、市町村長の同意は求められるが、必ずしも市町村議会の議決、承認などはない。

しかしながら、市町村長の同意とは、自治体の総意としての同意であり、この度の風力発電所建設のような大規模な案件については、議会の意見も踏まえながら判断したい。

一方で、市有林については、市の行政財産であり保安林であるかどうかに関わらず、行政財産使用を許可すべきかどうかなど別途判断することとなる。

なお、東比田地内で風力発電所が計画されている区域の一部では、令和2年度から「早生樹モデル団地事業」として、市が植林を行っている。

市としては、大規模な開発を伴う場合においては、当該植林地での行政財産使用を許可する考えはなく、風力発電所を計画している事業者に対して、当初からその旨を表明している。

質問 風力発電事業について、現段階の市長の見解を伺う。

答弁 安来市では、農業用水の不足による不作付け地の発生や渇水により節水呼びかけたことがあり、森林の水源かん養機能を現在の能力より低下させることはできるだけ避けなければならない。しかし、この度の風力発電事業は、水源地である市内山間部での事業を検討されており、風力発電施設の建設は、森林の水源かん養機能を現在の能力より低下させる要因にかなり得ず、渇水対策等に寄与するものではない。

地球温暖化の原因である温室効果ガスの削減に寄与する事業であることは十分に理解しているが、山間部の森林を持つ、飲用水や農業用水、工業用水を供給する保水機能や土砂災害防止機能に多少でも影響があれば、市民生活に直接影響を及ぼす事態となる。

よって、市民の意見や議会の意見を聞いて、市の意見書を作成する。



誠和クラブ
石倉 刻夷

集落周辺里山整備事業について

質問 里山整備事業には、竹の伐採、棚積み、整理の内容等、助成制度があるが、竹林の伐採、整理の要望があるか伺う。

答弁 里山整備に関する要望や竹林伐採の要望、相談は特にないが不要木の伐採、竹林の伐採は、県単独の補助事業があり、しまね東部森林組合に直接依頼されて事業が行われている。平成17年から令和4年迄の不要木伐採として、346箇所、491ha、竹林は25箇所8.6haの実績がある。

質問 今後、この制度を市民に周知する考えはないか伺う。

答弁 集落周辺里山整備事業と再生の森事業については、市民へのさらなる周知も必要であるが、県の事業予算も限られている。しまね東部森林組合によれば、現状でも全ての要望にお応えできていない。できる範囲で順次行っていることから、

今後、要望が増えた場合には対応し切れなくなるおそれもある。

竹林の整備は伐採しただけで放置をすれば数年で元の竹林に戻ってしまう。それでも、竹林の無用な拡大を抑える意味では、県事業による竹林伐採は効果があると考えており、しまね東部森林組合において、引き続き可能な範囲で県事業を活用して取り組んでいただきたいと考える。

質問 市内高校、大阪福祉健康短期大学への入学状況と支援について伺う。

答弁 高校は令和2年から4年の3年間は、約77%が市内からの入学、市外からは23%である。また、大阪福祉健康短期大学、令和3年度9名、4年度3名、5年度7名で、市外からの学生である。

下宿や賃貸住宅に入居している高校生には、家賃補助や食事提供事業者に対し補助金を交付し、市外入学生への支援をしている。短期大学は奨学金制度で、年当り上限80万円とし、卒業後5年間市内の事業所で就業すると、6年目以降は返還免除としている。

その他の質問事項

- 運転免許証返納による支援について
- 花嫁花婿対策について



同 心
清水 保生

地域医療基本構想と市立病院改革について

質問 基本構想の策定に向けての検討状況について伺う。

答弁 令和3年度から総務省アドバイザーや国の関係機関から助言をいただき検討を進めている。

令和3年度は、コロナ拡大により、医療現場は対応が最優先され、本来示される予定であった国の指針が示されなかった。その中で市立病院の経営改善を切れ目なく進めるため、独自の「市立病院改革プラン（令和4年版）」を策定した。

令和4年度は、新たに示された公立病院経営強化ガイドラインとこれまでの検討内容を基に、求められる役割や医療機能について整理し、3月の施政方針で目指すべき方向性を示した。

質問 3月の施政方針で、市立病院は安来市における地域医療の中核を担い続けることが使命であるとの

判断に至ったとあるが、具体的にはどういうことか伺う。

答弁 救急などの不採算医療やへき地医療をしっかりと担い、安来市の医療の中心となって、市民に良質な医療を安定的に提供していくことが使命であるという意思を表現した。

質問 同施政方針で、経営基盤の強化に向けて、医師等の継続的な招聘活動と効率的に医療が提供できる環境整備が必要とあるが、環境整備とは具体的にどういうことか伺う。

答弁 医療従事者の確保や効率的な医療実施のためのソフト、ハード両面の環境を整えていくことを示している。具体的な内容は今後検討し明確にしていく必要がある。

質問 建替を行うとした場合の場所以ついても今後の検討課題か伺う。

答弁 必要となる医療機能などについて引き続き検討を進め、総合的に判断していく必要がある。

質問 広瀬のまちづくりを進める上で、市立病院の将来像は早期に示していただきたいと思うが考えを伺う。

答弁 優先度の高い重要課題だと考えている。医療政策や情勢に対応しながら令和5年度では「安来市立病院経営強化プラン」を策定し、継続して検討を進める。



誠和クラブ
三島 静夫

観光振興について

質問 観光施設再生に向けた地域計画とはどのようなものか伺う。

答弁 観光地再生に向けた地域計画とは、観光庁の補助事業「地域一体となった観光地・観光産業の再生・高付加価値化事業」に申請するために必要な計画である。

この事業は、観光需要の回復、地域活性化を実現し、地域・産業の「稼ぐ力」の回復・強化を図ることを目的とし、地域で立案する宿泊施設の改修等を含む地域計画に基づき実施する取り組みに対し支援される。施設改修等を通じ、地域全体で連携し、ビジョン・コンセプトのもとで関係者が一体となって機能充実や高付加価値化を行う取り組みにより観光地として稼ぐ力を向上させる計画である。

質問 外国人観光客の地域別の特性についてどの様に認識しているのか伺う。

答弁 訪日外国人観光客を地域別でみると、アジアと欧米が大半を占めている。観光関係者から一般的に言われているが、アジアの旅行者は、個人旅行も増加しているものの団体ツアーを利用する方が多く、買い物や飲食に多く支出される傾向にある。一方、欧米の旅行者は、個人旅行が大半で滞在期間が長く、経験や体験サービスなどに価値を求めている方が多いと認識している。

文化芸術振興について

質問 郷土民謡安来節を県の無形民俗文化財指定にする見解を伺う。

答弁 民謡は時代とともにアレンジが加えられ変容するものであることから、文化財として取り扱うことは是非について様々な議論があるものと認識している。

安来市としては島根県の動向を注視するとともに、県指定の有無にかかわらず市指定文化財として保存継承を支援していく。

質問 三味線の購入に対する一部助成事業導入に対する見解を伺う。

答弁 安来節を振興していくために、例えば若年層に対する三味線などの楽器購入に対する一部助成も含めて、安来節保存会と協議をしながら検討を進めていきたい。



公明党
佐々木 厚子

認知症共生社会の実現について

質問 認知症本人で作成された「認知症とともに生きる希望宣言」があるが、認知症の診断を受けてから様々な苦しい思いをされた人たちが立ち直り、次に続く人たちのために作成されたものである。とても感動的な内容である。この希望宣言を多くの市民の方にあらゆる機会を通して知ってほしいと思うが、考えを伺う。

答弁 まずは、本人交流会などの集いの場を通して希望宣言を紹介し、認知度を上げていく。認知症とともによりよく生きていけるような環境整備をしていくことにより、認知症の方による希望宣言がされるような安来市となるよう、周知と事業を推進していく。

質問 認知症の早期発見等のため、「もの忘れ検診」を導入している自治体がある。かかりつけ医によるこの検診は抵抗なく認知症治療を受け

る糸口になると思う。導入する考えはないのか伺う。

答弁 現在、安来市地域包括支援センターによるもの忘れチェック等相談事業を行い、早期受診につながるような取り組みを進めている。認知症初期集中チームによる支援の仕組みもあり、現時点では導入する考えはない。

デジタル化推進について

質問 今年度予算にデジタル推進事業がいくつか計上された。主な事業の内容と利便性を伺う。

答弁 市民の利用が多い窓口で書かない化を進めていく。市民にとっては時間短縮や負担軽減が図られ、確実な手続きが可能になる。マルチタスク車両導入については、交流センターや集会所等に車両を派遣し、様々な行政サービスを提供する。来庁することなくサービスが受けられるため交通弱者やインターネット弱者の方に利便性を感じていただけていると思う。

質問 お悔やみ手続きにかかる負担を軽減するためワンストップで対応できる「お悔やみコーナー」を設置してほしいと思うが、考えを伺う。

答弁 現段階でのお悔やみコーナーの設置は考えていない。



温室効果ガス

排出削減の取り組みについて

質問 取り組みの一つに、Jクレジット制度があるが、この制度の仕組みについて伺う。

答弁 省エネ設備や再生可能エネルギー設備の導入によって削減される温室効果ガスの量や、森林の適切な管理によって吸収される温室効果ガスの量を、国内で取引できるクレジットとして国が認証する制度である。クレジットを売却する側は、売買により発生した利益を設備の拡充や森林管理の費用に充てることができ、購入側は自らの努力で削減しきれない温室効果ガス排出量を購入したクレジットで埋め合わせて、省エネ法などの法制度に基づく報告に活用でき、企業の社会貢献活動の一環としてPRすることが可能である。

質問

Jクレジット制度の方法論

に、水稻栽培における中干し期間の延長が追加されたが、取り組み方針を伺う。

答弁 農林水産省は、国全体のメタン排出量の約4割を占める水田からのメタン排出の削減を推進しており、令和5年3月1日に水稻栽培による中干し期間の延長がJクレジット制度に新たな方法論として承認された。約2千ヘクタールを有する本市の水田における本制度の有益性や、安来市再生可能エネルギー地産地消ビジョンも踏まえつつ検証を行う中で、取り組み方針などを含め今後検討したいと考えている。

保育所等への

びらり登園について

質問 紙おむつ定額使い放題サービスを行う考えはないか伺う。

答弁 紙おむつの定額サービスは、様々な事業者が実施しているが、月額2千500円程度の負担で園内での紙おむつが自由に使えるサービスである。現在のところ保護者からの要望は無いが、今後、要望があれば検討する考えである。

安来市の地球温暖化対策



質問 安来市は温室効果ガス排出量を2030年に2013年度比で13%以上削減の目標設定とされているが、目標数値を13%以上削減とした考え方について伺う。

答弁 家庭部門・業務部門・運輸部門は国等の施策を推進することによる温室効果ガスの削減量を見込んでいるが、産業部門については排出量の算定上、製造品出荷額が影響するため、削減量見込みを含まずに目標設定を行っている。安来市として、家庭部門・業務部門・運輸部門における削減対策を中心とした施策展開を行うことで2013年度比13%以上の削減を目指している。

質問 地球温暖化対策に対する市民への協力依頼、周知などについての実施状況と考えを伺う。

答弁 周知については多くの市民が年齢層を問わず、地球温暖化に関

する情報を手でできるように、ホームページや広報誌、どじよっこテレビやインターネットなどの情報発信ツールを活用した環境啓発を行っている。また、今年度は「やすぎ環境フェア」を11月に開催し、多くの市民が地球温暖化について考える情報発信の充実を図る。

質問 実際の削減量数値、今後の目標数値と達成に向けた考え、強化すべき取り組み、計画の見直しすべき点があれば伺う。

答弁 2030年排出目標量と比較すると、家庭部門と業務部門を合わせた民生部門では、排出目標量10万8千700tに対して10万9千800t、運輸部門では排出目標量5万5千100tに対して7万5千900tであり、まだ目標を達成していない。国は2050年カーボンニュートラル、2030年度温室効果ガス排出量46%削減という目標に向け、今後の進むべき方向性を示しているところであり、それに併せ、第2次安来市地球温暖化対策実行計画の見直しを検討していく。また、強化すべき取り組みは、安来市地球温暖化対策地域協議会と協働し、2050年に責任世代となる若年層を対象とした継続的な環境教育の実施、啓発活動などを行っていく。



政進クラブ
岩崎 勉

中学校の部活動と市職員の人材育成について

質問 各中学校の部活動地域指導者の活動の実態について伺う。

答弁 今年度は市内の全ての中学校で計19名の方に地域指導者として部活動の指導に関わっていただいている。休日を中心ではあるが、専門的な技術指導に加えて顧問との練習メニューや指導方法の協議、試合等での戦術的なアドバイスなど多方面で部活動を支えていただいている。

また、技術面の向上だけでなく、地域指導者からの助言が生徒の人間の成長や意欲の向上にもつながるなどの効果も生じている。

質問 地域指導者を受け入れた中学校から、働き方改革につながるといった話はあるのか伺う。

答弁 教職員から「多忙な中でも、複数の指導者がいることで、より効率的で合理的な練習を実施することができた」、「専門外の部活動を担当

しているが、精神的な負担が軽減された」などの声が多く届いている。うことでOJTが行われているが、効果的に行われるための指導者の研修・育成について、どのように行われているのか伺う。

答弁 指導者研修は島根県自治研修所や島根県総合事務組合での研修を活用している。

職場内でのOJTは人材育成の観点から大変重要な取り組みで、実際の業務を通じて教育訓練を行うため、実践的な知識やノウハウを学ぶことができる。

また、教える側も改めて業務を行う目的や自分自身の役割について見つめ直すよい機会となる。ただ、指導役となる職員の能力に大きく依存する部分も大きいため、OJTの指導者研修により力を入れなければならないと考えている。

質問 職員の人材育成について市長の見解を伺う。

答弁 職員を育てることが、安来市における市民サービス向上の一番の手段であると考えている。すべての職員が職務に応じた能力を身につけ、業務の中で発揮し、求められる役割を果たせるように効果的な施策の推進を図っていく。



政進クラブ
三原 哲郎

「福祉支援」について

質問 聴覚障がい者の避難支援及び夜間など緊急時の対応について伺う。

答弁 特に支援を要する「避難行動要支援者」を対象とした個別避難計画を作成することとしており、自主防災組織や自治会、民生委員等に協力をいただきながら進めていく。聴覚障害者向けの火災報知器や自動消火器、屋内信号装置などの整備を進めるほか、消防本部と情報を共有し、緊急時に迅速な対応ができるよう取り組んでいる。

質問 肢体不自由者（児）が使用する車椅子購入の補助金及び乗降などの支援について伺う。

答弁 障がい者総合支援法に基づく補装具購入費用の一部補助を行っており、特に児童については、障がい特性や成長状況、使用環境等を踏まえた柔軟な対応が必要と考える。障害区分に応じて利用できるホームヘルパーによる乗降等介助や、通

院等介助のサービスがある。
質問 福祉車両を購入する際の補助金の支援について伺う。

答弁 身体に障がいがある人自らが所有、或いは運転する自動車に福祉車両としての改造を加えた場合、改造経費に対し最大10万円の補助を行っている。

質問 肢体不自由者が自宅で風呂に入る際の支援について伺う。

答弁 障がいの程度から自宅浴槽の利用等が困難な場合は、専用の浴槽とスタッフが自宅まで訪問し入浴介助を行う訪問入浴サービスがある。

質問 手話言語条例についての考え方を伺う。

答弁 本市では、平成30年に「全国手話言語市区長会」へ加入し、加入自治体と手話関連施策の情報交換を進めている。

障がいのある人へ配慮した環境の整備は、全ての人が互いに人格を尊重し、支え合いながら生きる地域共生社会の実現に向けた大変重要な取り組みであると認識しており、先進自治体の条例等を参考に、研究を進めていく。

その他の質問

- ピブスについて
- 安来駅のエレベーターについて
- 避難時の手話通訳者について



日本共産党
向田 聡

大型風力発電計画について

質問 風力発電事業について住民説明会も行われ、かなりの方が今回の発電所計画について多くの疑問や不安を表明されている。出来てからこんなはずではなかったということにならないよう、慎重な判断と何より住民の合意がない中で進めることがあってはならないと考える。市長の見解を伺う。

答弁 ガイドラインでも、住民、市民の方々のご意見に沿って判断するというふうなうたっている。特に、今回の風力発電の大きさは、十神山の約2倍の高さだと言われている。我々は後世にわたって自然破壊のつげを回すことは出来ないという判断もしている。そして、皆さんご承知のように、この地では、森林、山林を大切にしてきた。安来市として、これから森林ビジョンを作成するというこの時期において、山の大切さ、山林の持つ多面的機能の大切さを十分考えながら、また、皆さんのいろ

いろな意見を聞きながら判断してま
いりたいと考えている。

学校給食無償化に向けて

質問 現在の安来市の小学生と中学生の給食費はいくらか、無償化にするには年間いくらの予算が必要か伺う。

答弁 年間で小学生1人5万2千250円、中学生1人6万1千750円で無償化に必要な予算は、年間約1億5千万円である。

質問 文科省の子どもの学習費調査では、公立の小学校にかかるものだけで年間約10万円、中学生が約17万円かかっているという結果が出ている。その中の給食費の占める割合は、かなり大きい。これが無償化になれば、子どもの教育費の父母負担軽減に大きく貢献する。完全無償化を望むが、一部無償化からでも進めていく考えはないか伺う。

答弁 無償化については、部分的な対応も含め現在のところ考えていないが、国の子育て支援策の情報や他市の動向を引き続き注視していきたい。

その他の質問項目

- 未就学児の交通安全対策
- 物価高騰対策



政進クラブ
福井 加代子

どじょう掬い踊りとどじょうの振興について

質問 どじょう養殖の歴史を伺う。
答弁 昭和31年から三度、様々な方法で試されたが失敗、現在の養殖は平成11年から開始、「やすぎどじょう生産組合」の結成、安定したふ化技術などにより安定的な生産体制が確立されている。

質問 安来節保存会と地域ブランドとしての「やすぎどじょう」は観光興のために共助、発展すべきと考えるが現状を伺う。

答弁 安来市観光協会で作成したパンフレット「やすぎどじょう専門誌」などを活用し、安来節、どじょうすくい、やすぎどじょうと合わせで広くPRする。

質問 ひとつ特化したものがあれば人が集まる。安来にも素晴らしいものがたくさんある。その中で特化するもの、させるものはやはり安来節だと考える。

安来節演芸館の再開に向けて、市長は市民を挙げて安来節を守ると言っておられるが、安来節演芸館の今

後のあり方について伺う。

答弁 安来節演芸館は観光施設だけでなく、安来節の振興のための文化施設でもある。安来節保存会と共に、若い人にも安来節に親しんでもらえるような演芸館になるよう考える。

切川バイパスについて

質問 切川バイパスの完成は令和6年度末と聞いているが、進捗状況を伺う。

答弁 島根県に聞いたところ、JR南側で「盤膨れ」という地盤変状により、工事への影響が発生し、現在調査中である。

質問 調査の結果、遅れることが判明した場合、遅延状況の周知はどのようにされるか伺う。

答弁 工事内容、期間が変更になれば、工事に直接関係する自治会に対して回覧等により周知することを検討中である。

質問 関連する市道安来港飯島線について今度のスケジュールを伺う。

答弁 市道安来港飯島線については令和7年の供用開始を目指し、橋梁の工事を進めている。県道と市道の交差点部分で工事が遅れるのであれば市道改良工事にも影響が生じる。

今後、県とも調整を図り、発表出来る状況になれば改めて報告する。



政進クラブ
内田 卓実

中山間地域の農業について

質問 中山間地域の農業に対しての支援及び課題に対する考えを伺う。

答弁 集落での農地の維持管理のための生産活動や多面的機能を維持するための共同活動に対する支援、また中山間地域の特色を生かした営農を確立するため、農業生産を支える水路や圃場等の整備など中山間地域に特化した支援がある。

なお、中山間地域の圃場整備事業は、平場と比べて不利な地形での整備となるため、地域における農業の維持、継続を目的として、圃場の集約だけでなく、用排水路整備による水管理の省力化、のり面整備による除草作業の労力軽減など、中山間地の地形、条件に合った整備事業である。

中山間地域の農業、農村の維持を図っていくためには、地域の方々による地域の将来や農地をどのように

引き継いでいくかの考え方により農業分野での様々な取り組みにとどまらず、総合的な地域課題解決に向けた取り組みが必要と考えている。

圃場整備について

質問 圃場整備の現状と今後の考えを伺う。

答弁 後継者不足の解消策の一つでもあるが、米の需要が低迷している中で、米に代わる水田園芸作物を作るための圃場整備ということに方向が変わってきている。

今後の農業のために何がなかの中、やはり基本的に農地が集積されて、大型機械での耕作も可能となり、今進められているスマート農業が可能な農地をたくさん造っていければよいと考えている。

近年、建設業の方々も少なくなっている。そこで、圃場整備事業を続けていけば若干の雇用の確保にもつながり、安来市の全体的な経済の底上げになると考えている。安来市は農業と製造業、あとは観光業、商業もあるが、その中でも農業は主たる業種であり、圃場整備については今後とも力を入れていこうと考えている。



誠和クラブ
作野 幸憲

スポーツを地域活性化の起爆剤に!!

質問 ウォーキングや継続して運動に取り組めるような施策についての考えを伺う。

答弁 市内24地区に健康づくりを推進する組織があり、毎年ウォーキング大会などの活動を実施されている。運動を継続的に行うことは、生活習慣病予防やフレイル予防などに効果的であり、より多くの方が実施できるよう、既存のウォーキングコースの周知をしていく。また、地域や参加される方の状況に合わせ、運動に継続して取り組めるよう、地区組織と連携を図る。

業との連携を図りながら、運動も含めデジタルを活用した健康増進施策を進めていくよう考えていく。

質問 中学校運動部の地域指導者の動向と課題を伺う。

答弁 ここ5年間の運動部活動における地域指導者数の推移は、令和元年度が9名、2年度が11名、3年度が15名、4年度が19名で、今年度は19名の派遣を行っている。このうち運動部活動には、17部活動に18名を派遣している。ただ派遣回数や指導時間に制限があることや、競技によっては人材の確保に苦労しているという課題もある。今後は地域のスポーツ団体等とも連携を図りながら、生徒にとって望ましい部活動の環境の提供等に努めていく。

質問 なかうみマラソンがなくなくなり、大規模なスポーツイベントによる交流がない中、今後のスポーツ交流の在り方についての考えを伺う。

答弁 スポーツを通じて人々が交流を深めていくことは、より豊かで活力ある地域社会の実現に繋がる。今後は、リモートの活用により、eスポーツの推進、プロスポーツ選手等を講師とした講演会の開催や技術指導などの充実を図ることも考えていく。

4月緊急会議 令和5年度一般会計補正予算(第1号) 林業DX推進事業に対する議論

4月緊急会議で上程された「令和5年度一般会計補正予算(第1号)」は、予算決算委員会にて審査が行われ、その結果、拮手多数により原案のとおり可決すべきものと決しました(内容は3ページ参照)。その後、本会議での採決の際、「林業DX推進事業」について動議により修正案が提出され、審議が行われました。しかし修正案に対する討論はなく、採決の結果「否決」と決しました(賛成4反対13)。

その後、執行部提出原案について可決すべきものとした予算決算委員長報告に対し審議が行われ、4名の議員より討論があり、採決の結果、賛成多数で可決されました(賛成12反対5)。

修正案の概要

提出議員

石倉 刻夷・作野 幸憲・三島 静夫
足立 喜信・清水 保生

修正の内容

林業DX推進事業費1億円を削除。

修正理由

▼航空レーザー測量での森林情報のデジタル化がどの程度活用できるかについては現時点では定かではなく、拙速である。▼森林ビジョンや林業振興基本計画の策定に際し、そこまですべて詳細な調査データは必要とは思われない。▼まずは林業振興の基本計画を策定し、森林資源の利活用の方向性を早急に示すことが先決である。

執行部予算に対しての 討論の要旨

賛成討論

澤田秀夫議員(市民クラブ)

▼国の補助金が採択されたことにより、安来市全域で森林の地形や資源量を詳細にデジタル情報化ができ、森林ビジョンを策定する上でも、重要な基礎データとなる。大いに安来市の林業の発展に寄与するものである。▼この交付金は、タイミングを逸すると活用できなくなる。▼スピード感を持って決断実行する田中市長の持ち味が感じられる。



湯浅正志議員(政進クラブ)

▼現在県が整備している森林簿は、昭和三十年代からのもので、推計値であり、森林のデータとして、十分である。▼令和6年度に森林環境譲与税もあり、今後、林業振興に關する期待が大きい。▼今後の林業施策を推進するうえで、必要不可欠な事業である。▼デジタル田園都市国家構想交付金の内示を受け財源を確保した上での事業であり、一般財源の5千万円については仮に今後、事前交付金が確保されない場合は、事業費のすべてが市負担になることもありえる。できるだけ財政負担を伴わず、事業実施ができるタイミング



は今しかない。

三原哲郎議員(政進クラブ)

▼安来市の面積のうち約四分の三は森林であり、その活用は将来の安来市のために非常に重要である。▼森林活用において課題となっている森林の境界確定、さらには地籍調査にも有益である。▼交付金において確保できるということは、まさに今がチャンスというタイミングである。



反対討論

清水保生議員(同心)

▼協議会等で森林データの活用方法を検討した上で、事業の優先度や事業効果等を検証し、必要と判断されたのちに、事業実施を考えるべき。▼安来市の将来の森林ビジョンや、林業振興計画を早期に策定し、その中で、森林資源の活用方法の方向性を示すことが先決である。▼具体的な目的が定かでない、現時点での事業実施は拙速である。



お詫びと訂正

やすぎ市議会だよりVol.74(2023.4月号)の4ページ「賛否の分かれた議案」の表において誤りがありましたので、下記のとおり訂正いたします。読者の皆様へ、ご迷惑をお掛けしましたことを深くお詫び申し上げます。

(誤) 議第72号 安来市個人情報保護法施行条例制定について

(正) 議第72号 令和5年度安来市一般会計予算

編集後記

紫陽花が綺麗な今日この頃。我が家の庭にも今年はピンクの紫陽花がたくさん咲きました。表紙の紫陽花も色とりどりでとても癒やされますね。

さて、新型コロナウイルス感染症も2類から5類に移行し、私たちの日常も以前のように戻りつつあります。今までのいろいろやりましたことができてよかったこと、なんだかとても忙しくなってきたような気がします。本来ならこれが本当の姿なのかもしれませんが…。安来市議会は、通年議会を実施しているのでも会議ができます。緊急会議、委員会での陳情審査などが最近多くなってきたのを感じます。諸議案に対してスピード感を持って審議していくところ、市民の皆さまの付託を受けている議員の務めであると思います。

さあ！これから夏本番！熱中症などに気を付けて忙しい日々ではありますが充実した毎日をごこしていきましょう。

広報広聴委員会
佐々木 厚子

スマホアプリ「マチイロ」にやすぎ市議会だより配信中心!

YouTubeで市議会配信